

第 8 回中心部震災メモリアル拠点検討委員会における主な意見

1 「はじめに」について

- ・冒頭に数値などで被害状況を記すのではなく、**報告書の主旨が伝わるような文章**を最初に加えるべき。
- ・被害については、瞬間的な大きさだけでなく、**その後の影響の長さ**を踏まえて記述しつつ、その過程における**記憶の大きさと、本拠点としてそれに向き合う姿勢**を感じさせるように記述すべき。
- ・震災の全体像を語る上で、**原発事故についても記述**すべき。
- ・東北や**震災を全体的に見る立場を強め**に出すべき。
- ・震災の概要に関する数値等について、**全国と仙台市で分けて記載**すべき。
- ・東日本大**震災クラス**の災害は**低頻度**であること、また、社会環境や脆弱性の変化に対応するために、**他の地域も含めてその間に起きる災害のことも取り入れていくこと**を盛り込むべき。
- ・「再び発生するかもしれない」ではなく、**災害が身近に日々差し迫っていること**を表現すべき。

2 「本拠点の機能」について

- ・メタファー（比喻）として“樹”を使うことは、**読み手の理解を促し、想像を喚起することに有効**である。
- ・メタファーとして表現する前に、これまでの検討委員会で出た様々なアイデアを基に**具体的な機能や活動の案も記載**すべき。
- ・本拠点における活動を含めてメタファーを**想像しやすいように絵や図表を加えて**はどうか。
- ・“記憶の樹”という名称について、“**災害文化**”や“**創造**”を包含した名称に改めた方が良い。
- ・“日常の交流・賑わい中で震災の記憶に触れる機能”について、**大きな樹の木陰の空間を意味する言葉で表現**できればよい。
- ・創造の成果と新たな展開の発生、そこからの循環を表す意味で、“**記憶の枝**”は“**実（みのり）**”と表現した方が良い。
- ・担い手について、専門的な方のほか、**各地域における市民の担い手についても記載**すべき。
- ・知恵の創造には、**新たに創造する場合と、既にあるものを調査・発掘する場合の 2 種類**が考えられることから、それを踏まえて記載すべき。
- ・「世代を越えた」は「**世代を超えた**」と記載すべき。
- ・家族の対話を通じた伝承も重要だが、標準世帯という概念が崩壊しているという認識の下、**家族という仕組みが機能しなくても、世代を超えて記憶を継承していくものとして本拠点を議論**すべき。
- ・本拠点は市民が守り育む一方で、この**地域に収まらない大きな取組みへのスケールを感じさせる工夫**が必要。

3 「立地の基本的要件」について

- ・建物と活動の立地要件は異なることから、単に「立地要件」ではなく、「**施設の立地要件**」と記載すべき

4 「今後の検討課題」について

- ・これまで検討委員会の意見を踏まえて「**拠点の要件**」として整理・記載しつつ、それを進める上での課題を「**今後の検討課題**」に記載すべき。

5 その他

- ・本拠点における「**公共性**」について、あらかじめ議論し、中で働く人がともに学ぶことで、「**家**」とは異なる外の居場所を作れるのではないか。